

2020 年度第 4 回価格審査会の開催について

2020 年度第 4 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2020 年 7 月 15 日(水) ~17 日 (金)		
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした		
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長	
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長	
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長	
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長	
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己	
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一	
	監査審査室	室長：後藤 裕	
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博	

2020 年度第 3 価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 4 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号の価格動向
・	<p>価格が上伸した資材（工事費）</p> <p>【Web 建設物価】異形棒鋼(全都市)、ねじ鉄筋(全都市)、伸銅品(全都市)、レディーミクストコンクリート（紋別、千葉、洲本、三田、都城A、都城B）、コンクリート用骨材【砂】（鶴岡A、鶴岡B、酒田、いわき、小田原市、南足柄、甲府、富士吉田、大月、甲州、身延）、コンクリート用骨材【碎石】（甲府市、富士吉田市、大月市、甲州市）、道路用碎石【クラッシュラン】（小田原、南足柄、甲府、富士吉田、大月、甲州、身延、阿蘇）、道路用碎石【単粒】（鶴岡A、鶴岡B、酒田、甲府、富士吉田、大月、甲州、身延）、歩道用横断防止柵【標準型】（全都市）、転落防止柵【標準型】（全都市）、電気用裸銅線(全都市)、燃料油【軽油ローリー渡し】（全都市）、鉄スクラップ(関東、東北を除く各都市)、銅スクラップ(全都市)など。</p> <p>相模原、横須賀、平塚、藤沢、小田原、厚木、南足柄、名古屋、四日市、高知、安芸、須崎、四万十、福岡、大野城、宗像、糸島、熊本、宇城A、合志、大津)、ストアス（那覇除く全都市）</p>

- ・ 価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】月積み契約分鉄鋼販売価格 鋼板・平鋼(全都市)、鋼板（近畿地区の各都市）、ひも付切板(全都市)、市中切板（大阪）、アルミ圧延品(全都市)、一般建築用木材【杉、RW、米松】（関東、北陸、中部、九州の各都市）、コンクリート型枠用合板（東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国の各都市及び那覇）、アスファルト混合物(札幌、大船渡、釜石、岩泉、宇都宮、足利、佐野、鹿沼、小山、真岡、前橋、高崎、桐生、太田、渋川、富岡、さいたま、川越、熊谷、所沢、加須、千葉、市川、船橋、木更津、松戸、成田、東京、八王子、立川、町田、横浜、川崎、
2. 比較資料
- ・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
審議 1	<p>鉄スクラップは、「製品メーカーが購入価格を引き上げ、問屋筋も買取価格を引き上げた結果、上伸した」とある。また、7月の他紙を見ると、6月迄の急騰で海外からの引き合いが減少した影響で下落したと逆の結果となっている。これは単にタイムラグによるものと考えてよいか。</p>	<p>鉄スクラップ価格は、この1カ月間、海外相場の変動などで、6月中旬までは上伸、その後下落に転じている。全国的な傾向は同じだが、6月中旬までの上伸額とその後下落額の関係で、東北、関東地区は、前月比横ばい。その他地区は上伸となっている。</p>
審議 2	<p>ストレートアスファルト 針入度 60～80 ローリー(円/t)の価格で、東京(78,000円→58,000円)、大阪(77,000円→57,000円)と大幅に下落しているのはなぜか。</p>	<p>ストレートアスファルト価格は、3カ月毎に価格改定される商習慣がある。春先に新型コロナの影響などで原油相場が大幅に下落し、これが反映されたものである。</p>

<p>審議 3</p>	<p>異形棒鋼の上伸理由として、鉄スクラップの上伸が挙げられている。H 形鋼については電炉製品の比率が低いことが、異形棒鋼とは異なる価格変動をもたらす要因になっていると考えられるが、店売り販売における H 形鋼の高炉製品と電炉製品の流通比率を示す統計データは存在するか。データがない場合、およその比率のヒアリングや推察は可能か。経年的に流通比率に変化は生じているか。また、近年の鉄鉱石価格の高止まりに伴い、高炉製品の製造原価は高まっていると思われるが、市中価格は電炉製品の価格に引きずられるかたちで近似したものとなっているのか。</p>	<p>H形鋼の店売り販売における高炉と電炉の比率については、公表されている統計データはないが、電炉が7割程度と言われている。この電炉比率は近年上昇傾向にある。このため、高炉価格は製造原価が高まっても、電炉価格の影響を大きく受けている。</p>
<p>審議 4</p>	<p>原油調達コストの下落→ストレートアスファルト価格の下落→アスファルト混合物も追従して下落傾向という状況下で、多くの地域でアスファルト混合物が下落しているのに対し、一部山梨県下では上伸した。この上伸は、ユーザーとメーカーとの関係に何かこの地区特有の事情があったのか。</p>	<p>山梨県下のアスファルト混合物メーカー各社は、以前から課題としていた採算改善に取り組んでいた。ストレートアスファルト価格の下落を背景に需要家の購入姿勢は厳しいが、メーカーは値下げに応じず値上げの交渉を粘り強く続けた。この結果、特に採算性が低い4t車輸送製品と改質I型製品が上伸した。</p>
<p>審議 5</p>	<p>原材料(原油)調達コスト増を背景に、燃料油が全国的に上伸傾向を示している状況において、北海道地区にみられる販売店間の販売競争激化による下落の背景として挙げられる理由は何か。</p>	<p>原材料(原油)調達コスト増を背景に元売りは仕切り価格を引き上げたが、製品需要は低迷している。このため、需要減少の影響を受けやすいパトロール給油やスタンド渡し価格は全国的に上値がやや重い状況となっており、特に需要減少による販売店間の競争が激しい北海道地区で下落となった。</p>

審議 6	<p>本年 2 月以降、新型コロナ禍が建設物価に与える影響にも着目しているが、コロナ禍に加えて今年も残念なことに甚大な豪雨河川災害が九州地方・中国地方で発生した。このような自然災害及びその対策の影響が建設物価に表れるのは、過去の事例から推察して何カ月後あたりからか。その頃からの建設物価の動向分析では、豪雨河川災害の影響についても検討配慮してほしい。</p>	<p>平成 30 年 7 月の西日本豪雨災害では、災害発生後しばらくして土のうやブルーシートなどの応急復旧資材の需要が増加したが、一時的な需要増にとどまった。その後 1 年近く経過した頃から本復旧工事が本格化し、建設機械や土木用資材の需要が増加した。価格動向については、ダンプ不足等に伴う輸送コスト増で上伸した資材が一部見られた。令和 2 年 7 月豪雨災害に関しては、当会 H P でも収集した情報を公表している。災害の影響がいつ頃表れるかは予測が難しいが、資材の動向について注視していきたい。</p>
審議 7	<p>ストレートアスファルトは下落、燃料油は上伸、原油相場の変動に伴う流通筋の追従の仕方に差があるのはなぜか。</p>	<p>ストレートアスファルトは、3 カ月毎に価格改定する商習慣があり、燃料油は、もう少し短期間で価格改定する商習慣となっている。このため、原油価格が製品価格へ反映するタイミングに差が生じている。原油価格は、直近でいうと上昇傾向、ここ 3 カ月間でいうと下落傾向といえる。</p>
審議 8	<p>東北・関東地区と他地区で鉄スクラップの値動きに相違があるのはなぜか。また、堅調な海外向け需要とあるが、「アジア電炉からの引き合い減」との記事が他紙であった。調査時点の違いなのか。</p>	<p>鉄スクラップ価格は、この 1 カ月間、海外相場の変動などで、6 月中旬までは上伸、その後下落に転じた。6 月中旬までの上伸額とその後下落額の関係で、東北、関東地区は、前月比横ばい。その他地区は上伸となっている。全国的な傾向は概ね変わらないが、それぞれの地区の鉄スクラップの発生状況、需要動向、流通筋の競合状態、電炉メーカーの購入姿勢などが地域差を生じさせる要因となっている。</p>
審議 9	<p>H 形鋼橋梁は、最大変動率 40%で「メーカーの値上げが浸透し、上伸」とあるが、H 形鋼に値上がりしている状況は見られないが、要因は何か。</p>	<p>最大変動率 40%は C-5 塗装系加算額が 5,000 円→7,000 円に上伸したもので、製品本体である桁は 7~16%の上伸だった。主な要因は、人件費上昇による製造コスト増である。</p>
審議 10	<p>いわき地区の砂で、「生産・輸送コストの上昇を理由に昨年より値上げを打ち出し…」とあるが、燃料油にそうした状況は見られない。燃料油以外の要因があるのか。</p>	<p>生産コスト上昇の主な要因は、人手不足に伴う採取業者の人件費上昇である。輸送コスト上昇の主な要因は、運転手不足に伴う販売業者の人件費上昇である。</p>
審議結果	<p>「建設物価」8月号、「Web 建設物価」8月号の価格動向に問題はなかった。</p>	